

少人数学級導入 10年の成果は

原 紀夫議員

平成15年の特区認定により規制緩和を受け、町費で教員を採用、増員し、少人数学級を導入して10年余りを経過する。

この間、教育効果について再三質問したが、「長い目で見なければならぬ」と答えており、子ども育ちや変容が着実に見られるようになってきたなどの報告は、学校だより等で広く町民に伝わっていると考ええる。

生活面は、本来、家庭教育に責任があり、長い期間、教育に公費を投入したこととの成果については、学力向上面での評価が重要と考える。学力テストの結果は管内ではどの程度の位置にあるのか伺う。

三澤教育委員長

少人数学級導入の効果として、生活面では、先生

が子ども一人ひとりの話を聞き、理解する時間が増えたことで、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っている。

学習面では、先生は個々に応じた指導ができ、おおむね基礎・基本の定着が図られている。また、子どもは授業での発表の機会が多くなり、そのことで自分に自信をもち、学習への関心意欲も高まっている。

今年度の全国学力学習状況調査では、本町の場合、学力調査の平均正答率はすべての教科において、全国平均を上回る結果となった。十勝管内では上位の位置であると思われる。また、学習状況の実態については、基本的な生活習慣が定着しており、言語活動、読解力が高い傾向となっている。

今後も、少人数学級導入による成果を踏まえながら、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上にむけて、さらなる指導の工夫改善を図っていききたい。



毎年開催されている子どもフォーラムでは、生徒から堂々とした意見発表が行われている。

町内会の再編成は

原 紀夫議員

本町の町内会は、戸数が8戸から121戸まで多岐にわたり、47町内会で組織されている。近年では高齢化が進み、活動の停滞化も懸念されている。

町内会長では現職町職員が4名、元職員が4名、他役員に現・元職員が町内会にかかわっていることは喜ばしいことである。以前の議会で、各町内会への職員担当制や、町から

町内会へ提案された4フック制など種々あるが、この際、清水市街地、農村地帯、御影地域を含めて高齢化に対応できる町内会組織に再編すべきと考えらるがいかがか。

高薄町長

町内会の再編成については、平成19年に町内会と農事組合を対象に実態調査を行い、協議したが、個々の町内会の歴史など、諸事情により、議論が深まらず再編成には至らなかった。

本年度の調査では、清水市街地で10戸未満が2町内会、20戸未満が12町内会あり、高齢化も進んでいる。今後、さまざまな助け合い運動や見守り、あるいは独居老人への対応策などを考慮すると、一定程度の戸数のある町内会が必要となってくる。

再編成に向けては、町内会連絡協議会などで議論を重ねていただきながら、町としても協議をしていきたいと考えている。

新たな

委員会構成

決まる

委員の任期満了により、第1回臨時会において、2常任委員会と議会運営委員会の構成が変わりました。

常任委員会

産業厚生常任委員会		総務文教常任委員会	
委員長	中島 里司	委員長	原 紀夫
副委員長	木村 好孝	副委員長	奥秋 康子
委員	角川 徳寿 西山 輝和 口田 邦男	委員	佐藤 幸一 山岸 政彦 安田 中勝

一部事務組合

西十勝消防組合		常設委員会	
議員	加来 良明 口田 邦男 原 紀夫 奥秋 康子	議会運営委員会	
		委員長	西山 輝和
		副委員長	山岸 政彦
		委員	原 紀夫 中島 里司 口田 邦男

閉会中の委員会活動

総務文教常任委員会

◇所管に関する事項について

産業厚生常任委員会

◇所管に関する事項について

議会運営委員会

◇議会の運営とその諸規定について

◇議長の諮問に関する事項について

